

●優秀賞

自己表現活動に意欲的に とりくむ生徒の育成

～「英語で日記を書くこと」を通して～

千葉県南房総市立丸山中学校 こまつよしえ
小松香江



1 主題設定理由

英語が通じる喜び、それは、英語の指導者であれば誰もが経験したことがあるだろう。

私にとっては大学生の時、カナダに留学している高校時代の友人を訪ねたときであった。私は元々英語が好きだったが、英語を話すことに自信がなかった。なぜなら中学・高校の授業では、教科書の内容のみの学習でほとんどactivityはなく、英語を話す経験がなかったからである。大学に入学して外国人の先生によるall Englishの授業を受け、英語を話したり聞いたりすることに少しずつ慣れてきたところだった。

カナダに到着後、はじめは英語の使用に自信がなかったのでコミュニケーションに積極的になく、英語が話せる友人に頼っていた。ある日パーティーに誘われた。参加者は外国人ばかり…気が重かったが参加した。パーティーが始まり、少しアルコールが入り気が大きくなったのか、気がつくとも英語で楽しく話をしていた。ある人が私の友人に向かって「あなたの日本から来た友達(私のこと)はおもしろいね。」と言ったのを聞いてとてもうれしかったことを、今でもよく覚えている。次の日からは、1人でいろいろなところに出かけた。近くの島に出かけ、宿(B&B)を探して1泊し、オーナーのご夫婦と一緒に散歩したり、地図を見ながら知らない場所に行き、道が分からなくなったら現地の人

人に聞いたりした。とても楽しい旅になった。

帰国後、大学の授業での言語活動やプレゼンテーションで、自分の考えを英語で伝えることが楽しくなった。自分の将来については、幼い頃からCAになりたいと思っていた。しかしこの経験後、自分が好きな英語の楽しさを、教員になって多くの生徒に伝えたいと考えるようになり、教員採用試験を受けることを決めた。

したがって、初任者の頃からの目標は、「生徒に英語を好きになってもらいたい。そのために楽しく分かる授業をする。」ということである。そして、生徒に身につけてほしいのは「英語を話す実践的なコミュニケーション能力」であった。英語を話して通じる喜びを生徒にも感じてほしいからである。よって授業では、自分のことや実際の状況についてなど、実際にある本当のことを表現する活動をできるだけ多く取り入れてきた。そのような活動を「自己表現活動」と捉えている。家庭学習でも自由に自己表現する活動ができないだろうか考えた。そこで、数年前から「毎日3行、英語で日記を書くこと」を行っている。

言語活動について、新学習指導要領に「実践的な運用能力を養うため言語活動を行わせる。」とある。そして「書くこと」について、「身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。」という新しい文言が付け加えられている。これら

の点から、「英語で日記を書くこと」は最適な言語活動の一つであると考えている。

英語で日記を書く時には、「英語で考えたことを、英語で書く」ことが必要となる。なぜなら、英語と日本語は語順だけでなく表現する方法もかなり異なり、日本語の表現に対応する英語表現がないこともあるからである。英語で日記を毎日書いている内にそれが身につく、日本語から英語に訳すというプロセスがなくなり、英語で考えたものをそのまま文に表せるようになる。いわば、「英語思考方式」が身につくのである。(ハ・ミョンオク2008)

また、日記のように身の回りの出来事を英文にすることは、興味がなく面白みのない内容の日本語を英文にすることは、英語にとりくむ姿勢に差が出てくる。結果、英語力が伸びてミスが少なくなり、表現力も豊かになる。

このように、英語日記を書くことは、内容的にも量的にもそれほど負担でなく、気軽にとりくむことができる上に、英語力を確実にアップさせることができる最高の手段なのである(石原真弓2001)。今回、「英語で日記を書く」とりくみについて改めて研究し、今後の指導に役立たいと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

- (1) 英語の授業で、自分や相手のことについて質問したり答えたりする言語活動を多く行えば、自己表現に有用な英語表現を身につけ、英語で自己表現する意欲を喚起できるだろう。
- (2) 英語で日記を書く活動において、アドバイスを工夫すれば英文を作る力が身につくだろう。
また、丁寧なコメントを返すことで、自己表現への意欲を高めることができるだろう。

3 研究内容

- (1) 授業での自己表現活動の実践
- (2) 英語日記の分析と考察
- (3) 自己表現活動に対する生徒の情意面の分析と考察

(1) 授業での自己表現活動の実践

自己表現に必要な英語の文法や単語は、もちろん授業において身につけるものである。家庭学習で日記を書く英語力をつけるために、授業での自己表現活動を工夫して継続的に実施することが欠かせない。授業で行っている以下の5つの自己表現活動についてまとめた。

(1)Bingo (2)Criss Cross (3)Reverse Bingo
(4)Questions to ALT (5)Writing

- ① **Bingo** [1.1/1.2] * []内の数字は、資料編の写真・図のページ数と位置を表す。

(資料編は紙面の都合上、割愛いたします)

〈目的〉

新出文法の学習でよく行う活動が、自己表現を使ったBingoである。Bingoにより、ゲーム性がある中で、新出文法を使ったQ Aを多くの仲間とできるからである。

例えば9マスのBingoであれば、すべての枠を埋めるために、9人に質問(Q)をすることになる。答える(A)回数は生徒によって差があるが、質問(Q)と答え(A)を合わせると、かなり多くのやりとりをすることになる。

しかし、Q Aの回数以上に一番大切なのは、新出文法を使って、事実や気持ちについて本当のコミュニケーションができる点である。そのようなQ Aを楽しく何回も行うことで、自然と自己表現力を身につけてほしいと願っている。

ただし、Bingoがゲームだけで終わらないよう、活動の前にQ Aの練習を徹底的に行い、全員がQ Aを言えるようになってからBingo用紙を配り活動を始める。また、Q Aの最中に日本語が使用されたり不正がないように、事前の働きかけやQ Aの作り方が大切である。

〈方法〉

- ① それぞれのマスの内容について仲間に質問し、答えた人(または、Yesと答えた仲間)の名前を□内に記入する。
- ② できるだけ多くの人と対話をして、時間内

により多くの□を埋められるようにする。

③ インタビューの時間終了後、全体で教師が提示する名前カードを使ってBingoを行う。

□に書かれている名前がカードで出てきたら、そのマスを手でチェックする。

Bingoシートのたて・よこ・ななめ、どれか1列のマスがそろったら、Bingoとなる。

〈留意点〉

Bingo用紙に書かれる英語はできるだけ少なくする。発話する英語が書かれていると、「話す」活動ではなく「読む」活動となり、「表現活動」でなくなってしまうからである。それぞれの枠には、英語の代わりに絵が描かれている。絵を見て英語で表現することにより、日本語や英語の文字を介さずに英語で話すことができることを目指している。

Bingoの枠の□には、質問に答えてくれた人の名前を記入する。そして、すべての枠についてQ Aを終えた後、書かれた名前を使ってBingo checkを行う。要するに、早い者順によるBingoではなく、時間で慌てることなく多くのQ Aを楽しんだ上で、全員にチャンスのあるBingoとしたいと考えている。Bingo CheckではName Cardsを使用する。

② Criss Cross

〈目的〉

生徒が教師の質問に答えていくライン・ゲームである。毎授業の冒頭に行っている。復習として、自己表現に必要な英語の知識の積み重ねとなることを目的としている。

質問内容は、まずウォーミングアップと復習を目的に、「Ⅰ 基本的で簡単な質問」から始め、既習の文法事項を段階的に使用していく。そして、「Ⅱ 最新の文法事項についての質問」により最新の学習内容についての復習を確実に行うことで、その日の授業の内容につなげる。

〈3年生1学期の質問例〉

Ⅰ 基礎的な質問

- ・ What time did you get up this morning?
- ・ What did you have for breakfast?
- ・ How did you come to school?
- ・ Where did you go last weekend?
- ・ What do you like to do with your friends?
- ・ What would you like to do next summer vacation?

Ⅱ 最新の既習文法を使った質問

- ・ What language is spoken in Australia?
- ・ What subject is(was) taught by ~ (a teacher's name)?
- ・ What makes you happy?
- ・ How long have you lived in Maruyama?
- ・ Have you ever been to Hokkaido? (How many times)
- ・ Have you ever eaten fugu?
- ・ Have you finished doing your math workbook yet?

〈方法〉

生徒の答えはすべて黒板に書く。そして、生徒が間違いをしたときは、全体で「Ⅲ 文法事項の確認」をするよいチャンスと捉え、生徒にも間違いをすることは大切なことだと話している。また、生徒の英語日記にみられる間違いについても、この場で解説して周知を図っている。

また、生徒が指名された時に、すぐに答えられず沈黙ができてしまうのは、不自然なコミュニケーションとしている。そのため、そういった場合には、英語のつなぎ言葉 (Well... / Let's see. / Once more, please. など) を使い、「沈黙と日本語なし」で会話をつなぐルールをつけ加えることもある。「No Japanese」で「英語のつなぎ言葉を使う」ことにより、より実践的なコミュニケーションの練習になることを目指している。このルールを行う時に、日本語を思わず使ってしまう生徒がいるが、クラスから笑

いが起こり、生徒は「なんだよー。」と言いな
がらも、楽しい雰囲気でも活動している。

③ Reverse Bingo

〈目的〉

授業でのQ Aを行う活動（Criss Crossや教科
書本文のQ Aなど）を行うと、どうしても生徒
が答える側（A）になることが多くなる。その欠
点を補うために行うのが Reverse Bingoである。

Reverse Bingoでは、生徒が質問（Q）を作り、
教師から答え（A）を引き出す。Bingoに書かれ
てある答えを教師から引き出せるような質問を
作るのである。3、4人のグループで質問を考
え、交代で1人ずつ教師のところへ行き質問す
る。書かれてあった答えが教師から出たらその
枠はクリアとなる。疑問文の作り方の確認にな
ることはもちろん、グループで相談しながら質
問作りを楽しんでいる。

〈方法〉

Reverse Bingo においても、1列終えた早い
者順でのゴールではなく、すべての枠について
Q Aを行った後、Bingo Checkを行う。

④ Questions to ALT

グループでALTへの質問を考える活動であ
る。賞品（シールなど）を手に入れることがで
きるグループは、①いちばん質問の数が多いグ
ループ、②いちばん面白い質問を考えたグ
ループの2つのグループである。①を目標として工
夫しbrainstorming 的に多くの質問を作ったグ
ループもあれば、②を目標としているいろいろな質
問を工夫し考えていたグループもあった。

3年生の1学期に、現在完了の復習として
「Have you ever ~?」を使った質問作りを行っ
た。当時のALTが離任間近であったこともあり、ALT個人について今まで知らなかったこと
について答えてくれ、非常に話が盛り上がった。

〈生徒が作った質問（一部）〉

- ・ Have you ever been to Hokkaido?
- ・ Have you ever eaten frogs?
- ・ Have you ever seen ghosts?
- ・ Have you ever had boyfriends?
- ・ Have you ever written a love letter?

⑤ Writing

〈方法〉

いろいろなトピック（修学旅行、運動会など
の行事や夏休みについて）やshow and tellなど
教科書にある教材を使って、自己表現活動とし
てのwritingを行っている。

授業で下書き・清書を行うが、まず、ALT
やJTEのモデルを紹介する。そのモデルを基
に英文の作り方（①主語動詞から始めること、
②既習の文法に自分の考えを当てはめていくこ
と）を確認してから、writingを始める。

writingを行うときは、20~30人の生徒に対
して3人の指導者（JTE2人とALT）がい
るという恵まれた環境に助けられる。それでも
3人でフル稼働して、writingの個人差にでき
る限り効率的に対応し、生徒全員がより心のこ
もった英作文にとりくむことができるよう支援
する。生徒同士の教え合いにも助けられる。

清書までかかる時間にはもちろん個人差があ
る。清書が終わった生徒は、英文作りが終わっ
ていない生徒の支援にまわる。そして下書きま
で全員が終われば、清書は家での宿題とするこ
とができる。ただ宿題にすると、せっかく書い
た下書きや清書用紙をなくす生徒もいるので、
昼休みなどを使って学校で終わらせることが多
い。

〈writing作品の掲示について〉

生徒が書いた作品は、全員分掲示している。
また、英作文に写真や描いた絵を添えることで、
他の生徒または英語の知識が少ない下級生も興
味をもって鑑賞できるようになる。そして、生
徒が互いの作品を鑑賞することで、仲間が作っ

た英文や考えを知り仲間を認め合う機会となることもある。

以前、3年生が思い出のある写真を紹介する show and tell を行った。ある女子生徒が修学旅行の写真をもってきて英作文にとりくんでいた。ほとんどの生徒が見に行ったよくある金閣寺の写真だった。しかし、他の学級の show and tell が先に掲示され、それぞれの生徒にしかない大切な思い出の写真が多く掲示された。それを見て、「提出した写真を変えていいですか」と言って、違う写真をもってきた。子どもの頃に会ったという、フィンランドから来たサンタクロースの写真だった。とてもすてきな show and tell になった。他にも、学校生活では知り得ないような大切な思い出についての英作文がたくさん掲示された。生徒が互いに高め合い、大変価値のある show and tell になった。

このように、writingは非常に価値のある自己表現活動である。数多く行いたい、時間の確保が難しい現実がある。しかし、今後英語の授業が週4回と増え、さらに小学校での英語学習により発展的な学習に充てる時間を生み出して、writing 活動を増やしていきたい。

(2) 英語日記の分析と考察

① 英語日記のとりくみ

毎日提出する家庭学習ノート（Bノート）に、3年生から新たに課題としてつけ加えている。今年度の3年生は6月から英語日記をスタートした。まず、授業で日記の書き方について例文が書かれたプリントを配布し、英語が苦手な生徒も自分で日記が書けるようにする。

〈プリント「Let's write Diary」〉

Let's write Diary

<行動>

I studied ~

I watched ~

I played ~

I ate ~

I read ~

I wrote ~

I cleaned ~

I made ~

I helped ~

I practiced ~

I bought ~

I went to bed .

I listened to music .

I exchanged e-mail .

Ⓜ gave me Ⓜ

went to

I went to ~ (場所)

I went ^に ~~で~~ { home. (家に)
there. (そこに)
abroad. (海外に)

I went ~~で~~ shopping.
★go ~ing (～しに行く)
動詞

接続詞 文と文をつなげる
=小文字で始めて文を続ける
<コママなし> →コママあり(間に漢字の意味がある)
Ⓞso +文(主語+動詞 ~) .

<コママなし> →コママあり(間に漢字の意味がある)
~~X~~but +文(主語+動詞 ~) .
~~X~~because +文(主語+動詞 ~) .

前置詞 ★時を表す
前置詞-----
1日単位

↑ 長

in

on

at

↓ 短

<時>

- at ~ ~時に
- on ~ ~日、曜日に
- in the morning(afternoon, evening)

<場所、その他>

- at ~ ~ (せまい場所、地点)で
- in ~ ~ (ひろい場所)で
- with 人 ~ (人)と一緒に
- before / after ~ ~の前/後に

<感情>

{ I was very happy .
 ~ makes me happy .
 (観敬…make, 過去…made)

{ I want to ~ (動詞の原形) .
 I enjoyed ~ ing .
 I had a good time ;
 It was (a lot of) fun. × I was fun.

I think (that) +文 (主語+動詞 ~) .
 I hope (that) +文 (主語+動詞 ~) .

sleepy / tired / excited
 surprised / sad / bored
 moved / angry / worried
 nervous / satisfied

*** ~ed と ~ing の区別**

	<~ed>	<~ing>
主語は	人 (主に自分)	物 (人について表すこともある)
使い方	人の気持ち・状態	物の様子 (人について表すこともある)
例文	<p>• <u>I</u> was <u>excited</u> . <small>(受動態: わくわくさせられる =わくわくする) ・人がわくわくする →物はわくわくしない)</small></p> <p>• Tennis makes <u>me</u> <u>excited</u> .</p>	<p>• <u>It</u> is <u>exciting</u> . <small>(わくわくさせるような)</small></p> <p>• <u>English</u> is <u>exciting</u> . ・ <u>The news</u> is <u>exciting</u> . <small>・おもに物が主語 →物や人について説明する。 (たゞに人 He is interesting, boring.)</small></p>
語	<p>excited (わくわくする) interested (興味がある) bored (退屈する) tired (疲れている) surprised (驚いている) shocked (め、ショックを受けている)</p>	<p>exciting (わくわくするようなもの) interesting (興味を持つような=おもしろい) boring (退屈するような、つまらない) tiring (疲れさせるような) surprising (驚くような) shocking (カ、ショックな)</p>

② 英語日記の指導の工夫

㊦ 間違いの解説

英文の間違いについては、ノートに解説を書いて訂正している。時間が許す時には、複数の色ペンを使用するなど文法が分かりやすくなるように工夫している。文法の理解につながることはもちろん、ノートに説明をできる限り丁寧に書くことで、日記を大事にしたいというこちらの気持ちを伝えたい。また英文の間違いについて、授業で全体にも説明して周知を図ることもある。

① 使用文法への波線

生徒がいろいろな文法(2年生以降に学習した文法など)を使用し、工夫して英文を書いている部分には波線を引いている。生徒のがんばりを認め励ますことが、生徒の意欲を引き出すものと考えている。

㊦ コメント

ほかに意識しているのは、こちらが書く英語のコメントである。生徒ががんばって書いてきた日記に対して、時間がある限り心をこめてコメントを書いている。それによって、生徒が日記を書きたいという気持ちを高めることができ

ると思っている。生徒は日記を一生懸命書いており、その日にあったことや自分が考えていることについて、また自分の悩みについて書いてくる生徒もいる。英語日記は、生徒とのコミュニケーションとしても、私にとって貴重なものとなっている。

③ 英語日記の分析

研究の仮説が妥当であるかを確認するため、生徒が英語で書いた日記を検証した。

仮説(1) 英語の授業で自分や相手のことについて質問したり答えたりする言語活動を行えば、自己表現に有用な英語表現を身につけ、英語で自己表現する意欲を喚起できるだろう。

㊦ 文法使用の状況

仮説(1)について、授業の言語活動により、自己表現に有用な英語表現を身につけていれば、その自己表現文を日記でも使用できると考えた。そこで、「授業で学習した文法」が日記で使用されているか検証した。

生徒の日記では、3年生1学期で学習した「現在完了」や「make A B」の文法がよく使われていた。授業の Bingo や Criss Cross で表現した英文が身につく、日記で使用されていると考える。

仮説(2) 英語で日記を書く活動において、アドバイスを工夫すれば英文を作る力が身につくだろう。また、丁寧なコメントを返すことで自己表現への意欲を高めることができるだろう。

㊧ 誤り修正の状況

仮説(2)について、日記での単語や文法の誤りについて「アドバイスを工夫することで、正しく英文を作る力が身につく」かどうか検証した。その結果、アドバイスが次に生かされ、正しい英文を書くことができている事例が多くあった。

- ・ *for the first time*
- ・ *went to home*
- ・ I (studied) *did my homework*
- ・ had a (goot) *good time*
- ・ want to (swimming) *swim*
- ・ *went to shopping*
- ・ , because
- ・ I (studied) *studied math.*
- ・ and
- ・ (plaing) *playing*

㊨ 心のもった日記

仮説(2)について、自己表現への意欲を高めることができたか、生徒が書いた心のもった日記をまとめた。部活や勉強に対してがんばりたい気持ちや、学校生活で感動したことなど、生徒の心の底から表れている意志や感情について書かれている日記がある。そういう日記を読んでコメントを書くことは、私にとって生徒との大切なコミュニケーションであり、いろいろな意味で幸せを感じることである。

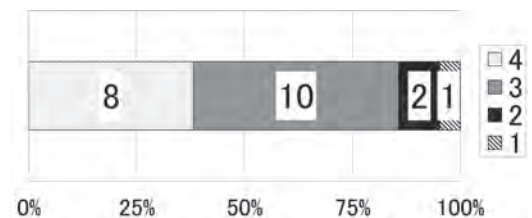
生徒の気持ちに合わせるべく、心をこめてコメントを英語で書くようにしている。

(3) 自己表現活動に対する生徒の情意面の分析と考察

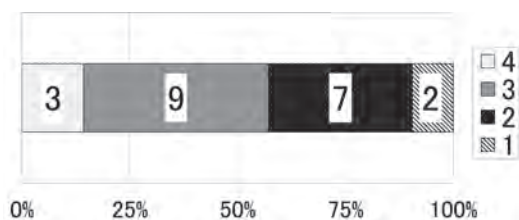
〈アンケート〉『それぞれの言語活動により、自己表現（聞く、読む、話す、書く）が好きになってきましたか』 4：とても 3：やや 2：あまり 1：まったく（調査対象3年21人）

① 授業での自己表現活動について

①Bingo 話す 聞く 85%



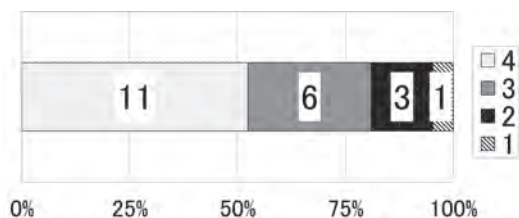
②Criss Cross 話す 57%



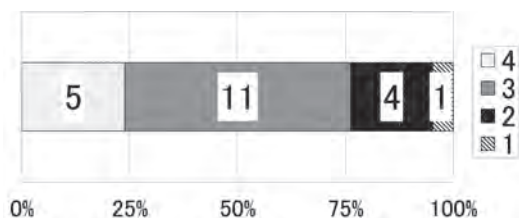
③Reverse Bingo、

④Questions to ALT

聞く 80%



⑤Writing 書く 76%



【生徒の感想】

○アクティビティが楽しい。勉強したことが自分で言えたり書けたりできるようになって楽しいから。ビンゴはいろいろな人のことが聞けるから楽しかった。手を挙げての発表は少し抵抗があるので、こういうほうが自分としてはいい。遊びながら覚えられるからよい。遊びだから。大体よかった。

●答え方が分からない。

①③④のような口頭による自己表現活動について、80～85%の生徒が好きになっている。活動にゲーム的な要素を設けることで楽しく感じることには予想していた。しかし、自己表現できること本来の楽しさを感じている生徒が多かったことが生徒の感想から感じられ、とてもうれ

しかった。

⑤Writing については、口頭による自己表現より一步難しい活動であるといえるので、負担に感じている生徒は多いかと予想していた。しかし、76%の生徒が「自分のこと（行動・考え）を書くことが好きになってきた」と答えたことに驚いた。自己表現文を書くことの楽しさ、そして、それを誰かに読んで認めてもらう、または認め合うコミュニケーションとしての楽しさも感じているのかもしれない。

また、日記との相互作用も考えられる。今年度、3年生はwritingとして、5月に「What I like」を行い、夏休み後に「Summer vacation」を行った。「Summer vacation」の時には、「書くことがないよー。」と言うような生徒がいなくなり、それぞれの生徒が意欲的に書いていた。英文の作り方についても以前より手がかからず、自分たちで writingを進めていた。その違いは驚きであり、とてもうれしく思った。自己表現の英文を書くことに慣れたり、その楽しさを感じたりしているのかもしれない。

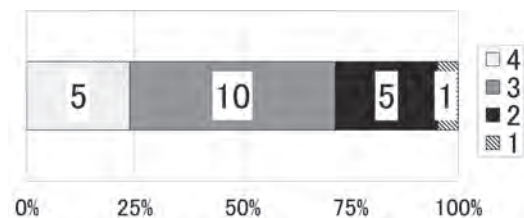
② Criss Cross により「自分のこと（行動・考え）について答えることが好きになってきた」と答えた生徒は57%にとどまっている。Criss Crossはラインゲームなので、どうしても下位の生徒が残ってしまいがちである。下位の生徒が Criss Crossを負担に感じ、英語を嫌いになってしまったのは本末転倒である。そのためCriss Crossでは下位の生徒にさりげなく留意し、早めに易しい質問を出すなどして、下位の生徒に答えるチャンスがあるようにしている。

そのような意識をもってCriss Crossを行っているが、それでもCriss Cross が好きでないという生徒が半分弱存在する状況である。調査対象の3年生は、今年度から私が教科担当となりCriss Crossを始めた。1、2年生の時から継続して行っていれば、質問内容が易しいうちから活動に慣れて楽しく活動できたかもしれない。また、人間関係や信頼関係といった学級の雰囲気も、大切な要素である。Criss Cross が

楽しく安心してできるような雰囲気作りや、自己表現力の向上を目指していきたい。

② 日記について

〈日記〉 書く 71%



【生徒の感想】

〈単語や文法が分かる〉単語が分かるようになってくる。文法を見直せていいと思います。

〈書ける〉英語で書けるものがどんどん増えてきているので、とてもよいと思う。自分の書いた日記をまた見直したりできるから。英語で自分なりに書いてきているので好きになりました。英語を書くことが身につくから。

〈好きになる〉英語がないと生きていけない。毎日書いていて好きになってきた。

〈楽しい〉毎日コメントがあって面白い。最初は全然分からなかったけど、少しずつ楽しくなった。楽しいけど、得意かどうかは分からない。書くのは楽しいけど、まだちゃんと文を書くのが得意じゃない。

〈ふつう〉別にふつうに書いているだけで、特に前と変わらない。ふつう。

〈書けない〉英語で書けない。どうやって書けばいいか分からない。

〈書くことがない〉あまり書くことがない。考えるのが難しい。考えるのが大変で、同じになることが多い。

〈大変〉大変。

71%の生徒が、日記の自己表現活動により、自分のこと（行動・考え）について書くことが好きになってきたと答えた。日記を書くことは

毎日の宿題として評価に関わるため、はじめは書かされている意識が多少あったと思う。しかし、英語の日記を始めて1カ月半が経ち、予想より多くの生徒が英語で日記を書くことを好きになっていた。

生徒の感想によると、「英語の知識（単語・文法）が増強される。」「英語で自分のことについて書ける。」「書くことが好きになる・楽しくなる。」と生徒は感じている。多くの生徒が英語で日記を書くことの意義を感じ、英語で自己表現することを楽しむことができていることが分かり、本当にうれしかった。

しかし、「英語で日記を書くことがあまり好きになっていない。」と答えた生徒は5人(23%)いる。生徒の感想によると、肯定的でない気持ちとして「日記で書くことがない。」というものがある。3年生は夏休みで部活動を引退し、日記で書く内容はこれからさらに減ってしまう。日記の内容は、学校生活についての内容でもよいと伝えるなどアドバイスをする。また、「毎日コメントがあって面白い」という感想のように、丁寧なコメントを返すことで、自己表現への意欲を高めることができる場合もある。こちらがオープンな気持ちで自己開示すると、生徒も自己表現しようという気持ちになれると思っている。生徒の日記に対するコメントを引き続き大切にしていきたい。

また、「書き方が分からない。」という生徒の感想もある。「英語思考方式」による英文の作り方が身につくよう、授業の Criss Crossなどで基本を繰り返し指導したい。そして、授業で writing を行う時の指導を大切にしたい。なぜなら、writing は Bingo などと違って決められた使用文法がなく、いちばん自由に自己表現できる機会だからである。研究内容(1)⑤でも触れたが、生徒が英文を書く時にはまず例文を提示する。そして「英語思考方式」として、「①主語・動詞で文を始める。②使用する文法や熟語を考え、そこに自分の考えを当てはめていく。」という2点を確認する。

生徒のwritingが始まると、多くの生徒が自己表現したい英文の作り方を質問してくるが、その時の指導方法に留意したい。こちらがただ英訳してしまうのではなく、「英語思考方式」により「主語や動詞が何になるのか、生徒と一緒に考える。」「日本語をもとに考えない。」などアドバイスを工夫して、生徒が自分で英文を作ることへの橋渡しとなるような指導を行いたい。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ① 授業で学習した自己表現文が、英語の日記で使用されている。言語活動により有用な英語表現を身につけていると考えられる。また、授業の言語活動での自己表現について80%前後の生徒が肯定的な気持ちをもっており、意欲が喚起されたことが分かった。
- ② 生徒の英語日記において、単語や文法の誤りについて指導することにより、その多くのアドバイスが次に活かされ、正しい英文を書くことができるようになることが明らかになった。また、日記での自己表現への意欲が高まっており、こちらから丁寧なコメントを返すことも一因であることが分かった。

(2) 課題

- ① 授業での自己表現活動や日記を書く活動を行ってきたが、英語が読める・分かるといった基本的な力が欠けている生徒にとっては、英語を楽しむ段階までいかない場合がある。特に、英語が読めない生徒は英語学習を思うように進めることができない。英語学習の初期段階から「英語が読めること」を徹底して、英語の楽しさを感じるための基礎力を生徒全員につけさせたい。
- ② 今回の研究で実践した自己表現活動においては、話すことや書くことといった output の活動に重きが置かれている。今後、聞くことや読むことにも視点を当て、4技能によるコミュニケーション能力を総合的に育成でき

るような言語活動を考え実践したい。

〈参考文献〉

- ・石原真弓『英語で日記を書いてみる』ベレ出版 2001年
- ・ハ・ミヨンオク『英語日記表現辞典』アルク 2008年
- ・北原延晃『英語授業の「幹」をつくる本』（上巻）ベネッセ 2010年
- ・北原延晃『英語授業の「幹」をつくる本』（下巻）ベネッセ 2010年